



《旧上等（1・2等）待合室の天井》

旅行センター西側天井内の装飾性の高い旧天井には、中央部にシャンデリアの吊り元と考えられる円形装飾があり、また、近くには煙突跡が確認できました。竣工当時、この部分が上等（1・2等）待合室の天井であったと考えられます。



《待合室の天井》

竣工当時のものと考えられていた待合室の天井材は、比較的新しい材料が使用されていました。しかし、天井の位置（高さ）については、現場の状況から、竣工当時と同じ位置であると考えられ、当時の天井高さは約4,900mmと推定できました。



《棟飾り》

2階屋根両端に設置されていた棟飾りを取り外したところ、当初想定していた鋳物ではなく、銅板製であり、比較的新しいものでした。ただし、その形状に関しては、古写真から、竣工当時の形状を踏襲していると考えられます。



《塗膜調査》

塗装塗膜の剥ぎ取り調査から、竣工当時の建物内部の色として想定できる色は、薄いグリーンですが、待合室の化粧柱柱頭部の木製円形枠部では、1層目に茶系色が見られるなど、竣工当時の色の特定は困難でした。



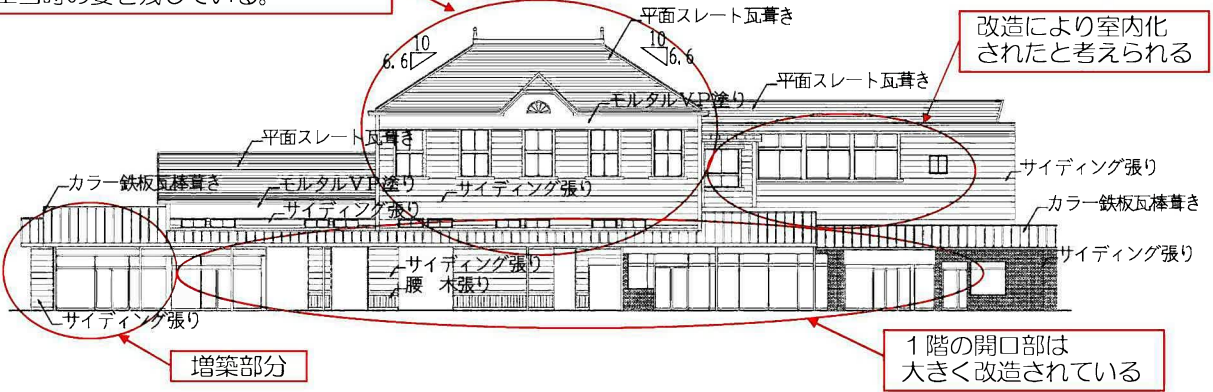
《コア抜き調査》

待合室の磁器タイル張りの床面で、コア抜き調査を行った結果、調査時での床面は、竣工当時の床面から約100mm程度嵩上げされていました。

記録保存調査時（平成24年）の東立面図及び平面図

■東立面図

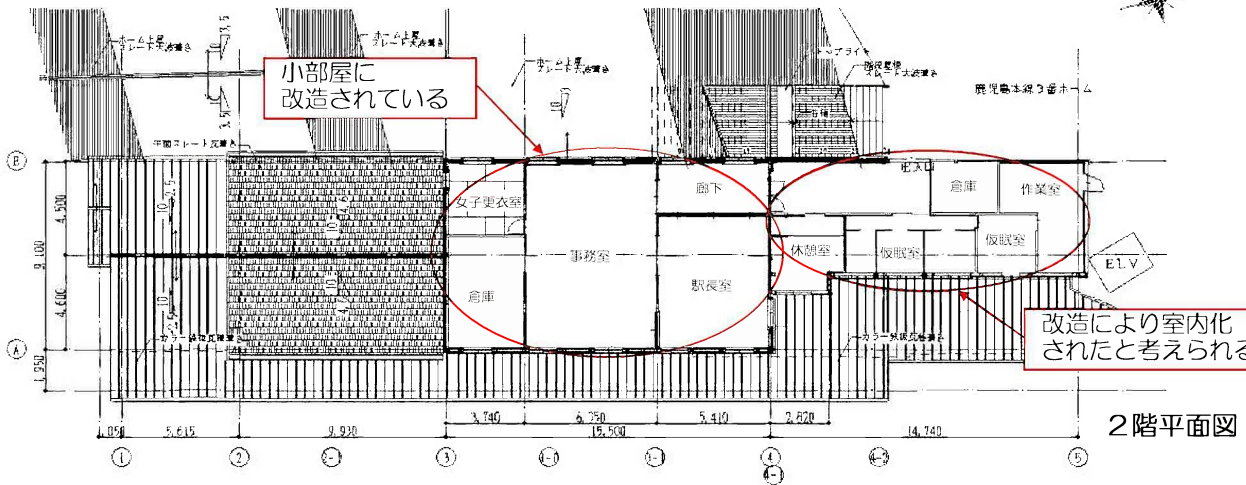
2階中央部の屋根形状や窓の位置は、竣工当時の姿を残している。



改造により室内化されたと考えられる

1階の開口部は大きく改造されている

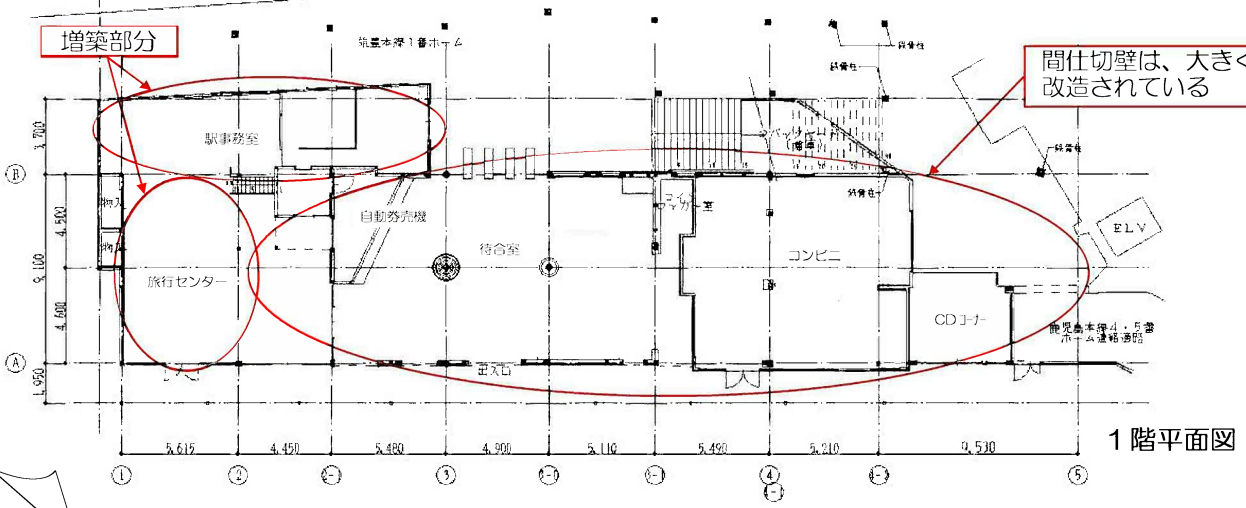
■平面図



小部屋に改造されている

改造により室内化されたと考えられる

2階平面図



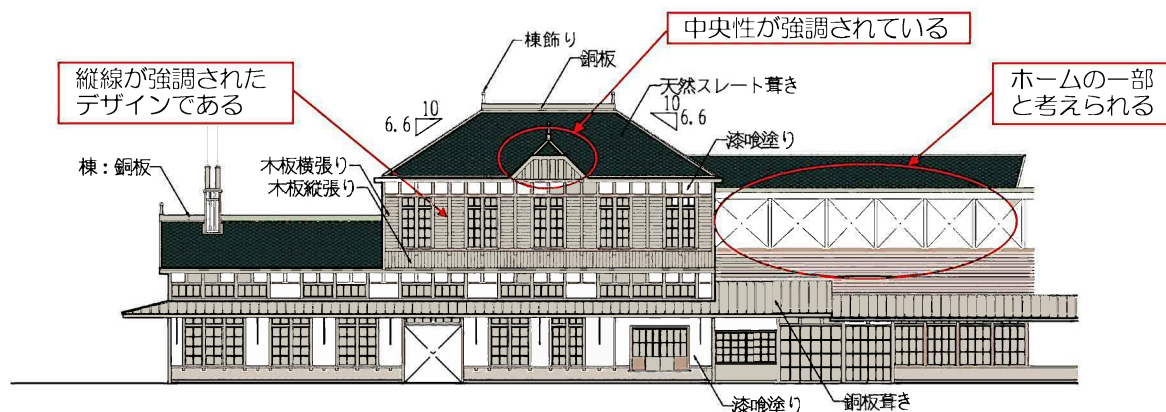
間仕切壁は、大きく改造されている

1階平面図

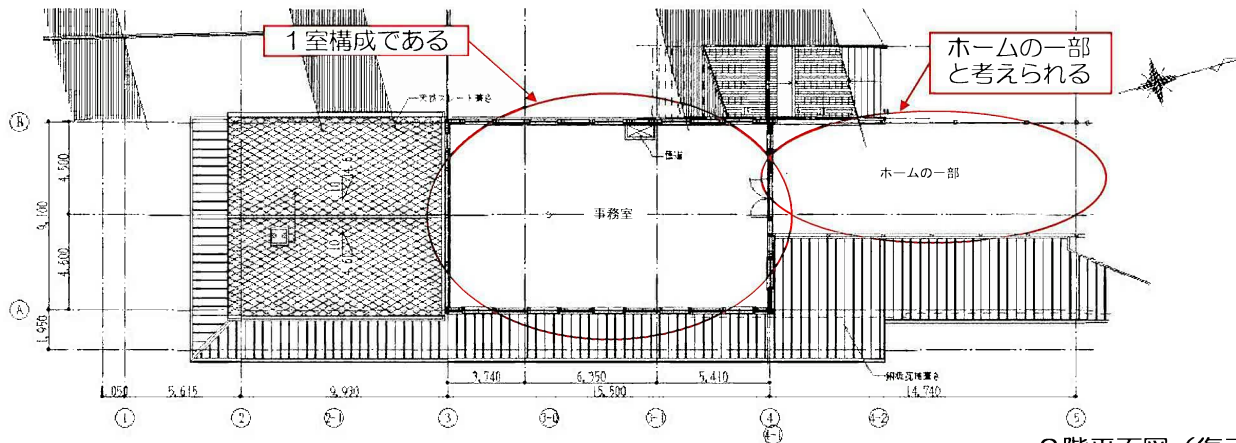
竣工当時（大正5年）の復元図

折尾駅舎の竣工当時の図面は残されていないため、当時の状態を完全に捉えることはできませんが、解体調査や史料による調査で得られた結果等をもとに、復元考察を行い、復元図を作成しました。
 （使用した当時の室名は、史料等から判断。）

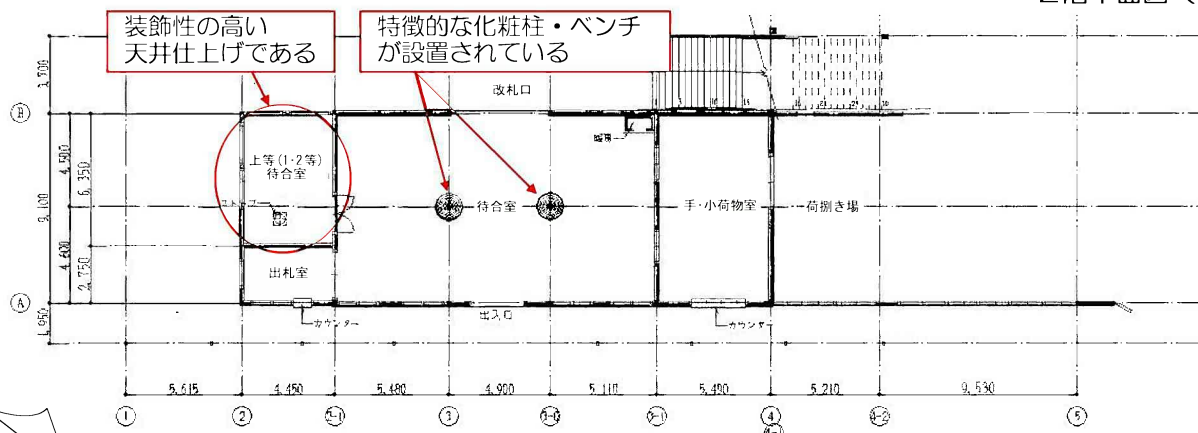
■東立面図



■平面図



2階平面図（復元）



1階平面図（復元）



新折尾駅舎デザイン（案）（左側：鹿児島本線、右側：筑豊本線）

お問い合わせ先

北九州市 建築都市局 折尾総合整備事務所

住 所：807-0825 北九州市八幡西区折尾四丁目 8-18

計画課 TEL 093-602-3108/FAX 093-602-3128

e-mail：toshi-keikaku@city.kitakyushu.lg.jp

折尾地区総合整備事業ホームページ

折尾地区総合整備事業

検索